

インフォメーション

医療と介護。そして、その未来へ。

スタッフ
募集

医療法人 清水会

- 鶴見緑地病院
- ミズノ胃腸科・内科・整形
- 介護老人保健施設 おひさま園
- 森小路清水会クリニック
- トム・ソーヤ 訪問看護ステーション

社会福祉法人 清水福祉会

- 特別養護老人ホーム / 養護老人ホーム さくら苑
- さくら苑 デイサービスセンター太子橋
- ケアハウス鶴見緑地
- 特別養護老人ホーム 城東こすもす苑
- 特別養護老人ホーム 鶴見緑地苑
- サービス付き高齢者向け住宅 さくら
- 介護付き有料老人ホーム 鶴見緑地



清水会グループ 統括本部 採用係
〒535-0022 大阪市旭区新森3丁目1-12 ☎06-6952-5188
ホームページ <http://www.seisukai.net/> ホームページに求人詳細を掲載しています

編集後記

▼今回の特集は「清水会グループの40周年記念誌」を選びました。
昭和50年に創立された「ミズノ胃腸科・内科・外科診療所」に始まる清水会グループの発展の足跡をご覧に頂ければと思います。
▼清水会グループ第11回合同事例研究発表会の開催。
「よりよいサービスの提供を目指して」の指針のもと、各施設でのさまざまな事例を通して、介護の質を高めていく為に行っています。
▼レシピ紹介では旬の緑黄色野菜「スナップえんどう」を使った新じゃがスープ。食物繊維・カリウム・ビタミンC等、栄養バランスの良い食材を使ったレシピとなっていますので、ぜひ、お試しください。

清水会グループ



医療法人 清水会
鶴見緑地病院
〒570-0044 守口市南寺方南通3-4-8
☎06-6997-0101 ㊟06-6992-0151



医療法人 清水会
介護老人保健施設 おひさま園
〒535-0021 大阪市旭区清水2-1-21
☎06-6952-0101 ㊟06-6957-0202



医療法人 清水会
ミズノ胃腸科内科整形
〒535-0022 大阪市旭区新森3-3-31
☎06-6952-5058 ㊟06-6952-5311



医療法人 清水会
森小路 清水会クリニック
〒535-0022 大阪市旭区新森3-3-24
☎06-6958-7070 ㊟06-6952-7755



医療法人 清水会
トム・ソーヤ 訪問看護ステーション
〒535-0022 大阪市旭区新森3-3-31
☎06-6956-0505 ㊟06-6956-0808



社会福祉法人 清水福祉会
介護老人福祉施設 さくら苑
〒535-0021 大阪市旭区清水3-15-23
☎06-6957-8008 ㊟06-6957-8009



社会福祉法人 清水福祉会
デイサービスセンター 太子橋 さくら苑
〒535-0001 大阪市旭区太子橋2-8-31
☎06-4254-3003 ㊟06-6951-1001



社会福祉法人 清水福祉会
介護保険特定施設 ケアハウス 鶴見緑地
〒570-0044 守口市南寺方南通3-4-16
☎06-6998-3003 ㊟06-6998-3001



社会福祉法人 清水福祉会
特別養護老人ホーム 城東こすもす苑
〒536-0016 大阪市城東区蒲生2-2-38
☎06-6933-2002 ㊟06-6933-2333



社会福祉法人 清水福祉会
特別養護老人ホーム 鶴見緑地苑
〒570-0032 守口市菊水通3-16-2
☎06-6995-5005 ㊟06-6995-5225



社会福祉法人 清水福祉会
サービス付き高齢者向け住宅 さくら
〒535-0022 大阪市旭区新森3-3-31
☎06-6958-7007 ㊟06-6952-7733



社会福祉法人 清水福祉会
介護付き有料老人ホーム 鶴見緑地
〒570-0043 守口市南寺方東通1-1-31
☎06-6997-9009 ㊟06-6992-9009

清水会グループ URL <http://www.seisukai.net/>



医療と介護。そして、その未来へ。



Seisui

Contents

- 02・03 清水会グループ40周年記念誌発刊へ
- 03 清水会グループ平成27年度基本方針
- 04 清水会グループ第11回合同事例研究発表会
- 05 平成27年度清水会グループ合同入職式／新任ドクター紹介
- 06 クローズアップ(さくら苑デイサービスセンター)／気になる症状
- 07 認知症サポーター養成講座(鶴見緑地苑)／レシピ紹介

表紙写真／イワウチワ(岩団扇)
撮影：山内康雄Dr.(鶴見緑地病院)

2015.05 Vol.13

清水会グループ 40周年記念誌発刊へ

Seisui

A4版 30ページ 発展の足跡、折々の秘話を紹介

多くの支えに理事長が感謝の言葉



今年が、清水会グループの原点となった「ミズノ胃腸科・内科・外科診療所」が開院(昭和50年3月)されて40年になることから、周年史「清水会グループ40周年記念誌」の編纂が進められています。40年間の発展の足跡や折々のエピソードなどがつづられています。ここではその内容の一端を紹介します。

清水会の礎を築いた二人

「ミズノ胃腸科・内科・外科診療所」を立ち上げたのは、水野進・信子ご夫妻。地域医療に情熱を燃やす二人は、拠点を旭区新森の地に決めました。無床で、小さな待合室しかない診療所でしたが、手厚い医療と温かな人柄によって、多くの患者が来院、順調なスタートとなりました。二人の“人となり”は、記念誌の「清水会が歩み出した軌跡」の中で、水野進 医療法人 清水会初代理事長、水野信子 同第二代理事長のヒストリーとして紹介されています。進理事長の場合、外国航路の船医として、船員の健康維持に携わった体験が、地域医療の「かかりつけ医」としての診療に生かされたというエピソードを紹介しています。また、信子理事長が医師を目指した理由が「男女平等にものがいえる職業」にあったというのは興味深い内容になっています。

40周年を迎えて

ページは前後しますが、巻頭部分で医療法人 清水会の水野郁子現理事長と社会福祉法人 清水

福祉会の水野智志現理事長が、「清水会グループ40周年を迎えて」と題して、それぞれ挨拶を述べています。水野郁子理事長は、挨拶の中で、ご両親の逝去に伴い、若くして後継の責任を背負って立った苦労を通し、「若くして重責を担ったことは、苦労の連続ではありませんが、貴重な経験をさせていただき、心の財を積ませていただいた、かけがえのない日々であったと実感しております」と述懐しています。

一方、水野智志理事長は、時代のニーズが施設完結型から地域完結型へと、地域包括ケアの方向性が加速している状況を踏まえて、「医療福祉複合体としての特性を生かし、地域医療、福祉に貢献していきたいと考えています」と抱負を述べています。

祝 辞

周年史には、守口市医師会の生野弘道会長と伊佐進一衆議院議員のお二人が祝辞を寄せています。地域のニーズに応えていきたいとする「前向きなお二人に、地域も大きな期待を寄せています。お二人を支える素晴らしいスタッフも、地域にとってありがたい存在です。守口市医師会も、力強い清水会の皆様に、心から拍手を送っています」(生野会長)、「貴会がこれまで地域において果たしてきた役割や実績、そして40年間、脈々と受け継がれてきた、地域への責任感や理念を考えれば、貴会にこそ、そのリーダーシップを発揮してもらわなければなりません」(伊佐議員)とエールを送っています。

清水会グループの歴史と伝統、その未来へ

40年のあゆみ

清水会グループの40年のあゆみは、創成期、発展期、進展期、成長期、躍進期の五期に分けて、それぞれの期を代表する出来事を中心に、発展の足跡が描かれています。清水会の名前の由来や、医療法人、社会福祉法人を取得し、施設を開設していった時の苦労談等、改めて40年の歴史の秘話に迫る内容となっています。

トップインタビュー

トップインタビューでは、水野郁子理事長と水野智志理事長が、清水会グループの歴史と未来への希望を熱く語っています。その中で、郁子理事長が「超高齢化社会を目前にして、法人としてはさらに質を高めて、さまざまなニーズに応えられる力を養い、地域に貢献していきたい」と語れば、智志理事長も「病病連携、病診連携はますます重要度を増してきております。地域の方々からも、連携施設からも信頼される病院、施設として成長するため努力していきたい」と抱負を述べています。「地域貢献」は、清水会グループの掲げる重要なテーマですが、各施設が行っている具体的な地域貢献運動が紹介されています。たとえば、職員有志で結成されている「海坊主 カリホ」地域のイベントや祭りに招かれ、沖縄民謡のエイサーを披露し、好評を博しています。その他、AED講習会の開催(おひさま園)、家族介護教室の開催(鶴見緑地苑)、認知症サポーター養成講座(守口第6

地域包括支援センター)など、積極的に地域との交流に取り組む姿が紹介されています。

私たちの清水会

「私たちの清水会」のページでは、医療法人 清水会に属する鶴見緑地病院、ミズノ胃腸科・内科・整形、介護老人保険施設おひさま園、森小路清水会クリニック、トム・ソーヤ訪問看護ステーションの紹介、および社会福祉法人 清水福祉会の特別養護老人ホームさくら苑、ケアハウス鶴見緑地、さくら苑デイサービスセンター太子橋、特別養護老人ホーム城東こすもす苑、特別養護老人ホーム鶴見緑地苑、サービス付き高齢者向け住宅さくら、介護付き有料老人ホーム鶴見緑地の各施設が紹介されています。

以上簡単に記念誌の内容を紹介してきましたが、清水会グループの歴史と伝統、その未来を知るうえで、貴重な一書となっています。

なお、本記念誌は非売品となっていますが、ご希望の方は各施設の窓口にお申し出いただければ閲覧できます。

理念

- 1.私達は 医療、介護、福祉を通じ地域に貢献する。
- 2.私達は 多くの方々に愛される施設をめざす。
- 3.私達は 調和のとれた、豊かな人間性の育成につとめ、誇りと責任を持ち、日々研鑽を重ねる。

清水会グループ平成27年度基本方針

医療法人 清水会

- ①健康を維持する為の治療、予防医療に取り組みます。
- ②地域包括ケアシステムの構築に取り組み、地域を支えます。
- ③効率的で、持続可能な事業運営を行い、地域に貢献いたします。

社会福祉法人 清水福祉会

- ①経営組織の強化、運営の透明性、財務規律の確立を図ります。
- ②地域社会とともに存在し、地域福祉を支えます。
- ③外部の専門家・専門機関を活用し、社会福祉法人にふさわしいガバナンスを示します。

清水会グループ 第11回合同事例研究発表会

院内感染防止策の実施の検討など11題 よりよいサービスの提供を目指して

第11回 医療法人清水会、社会福祉法人清水福祉会「合同事例研究発表会」が、2月14日午後、「旭さくら苑」ダイルームで行われました。
この発表会は、各施設でのさまざまな事例を通して、考察、工夫、取り組み、結果等を報告するもので、今回は、第1部、第2部に分けて、熱心な研究発表が行われました。

第1部では、「院内感染防止策の実施の検討～手指消毒の現状～」(鶴見緑地病院:薬局 豊島光男さん)、「身体拘束についての取り組み～一人の利用者を通して～」(おひさま園:看護部 宮本景子さん)、「開設11年目を迎えて～新しい試み～」(さくら苑:養護 森田ちえみさん)、「看取りケア～安らかな旅立ちに向けて～」(ケアハウス鶴見緑地:介護部 山地久美子さん)、「介護記録について」(城東こすもす苑:介護部 島田美香さん)、「介護職員の定着とキャリア段位制度」(おひさま園:事務長 澤田清さん)の6人が発表しました。

また第2部では、「外国人雇用について」(統括本部:人事部 橋本孝之さん)、「嚥下について」(鶴見緑地病院:リハビリ部 山田真一郎さん)、「栄養ケア・マネジメント～苑全体の栄養評価を通して～」(旭さくら苑:事務部 村上祐子さん)、「有料老人ホーム鶴見緑地の取り組み」(有料老人ホーム鶴見

緑地:事務長 早浪光さん)、「旭区(大阪市)の介護事業の現状と今後の法人戦略」(鶴見緑地苑:施設長 菊野和雄さん)の5人が発表に立ちました。
発表の後には、参加者との間で活発な質疑応答もあり、充実した発表会となりました。
総評に立った社会福祉法人清水福祉会 水野智志理事長は、それぞれの発表が日頃の着実な取り組みを反映して、深い内容になっていたと評価したうえで、それぞれの職場で、よりよいサービスの提供に生かして欲しいと挨拶しました。



平成27年度清水会グループ合同入職式

理事長「利用者さまに信頼される人に成長を」

4月1日、清水会グループの合同入職式が、さくら苑の地域交流スペースで厳粛に行われ、黒のスーツ姿の初々しい男女新入職員が緊張した面持ちで臨んでいました。



入職式では、冒頭、社会福祉法人清水福祉会の水野智志理事長が挨拶、社会人としてのスタートへのお祝いと励ましの言葉を述べました(要旨別掲)。続いて新入職員一人ひとりに理事長から辞令が交付されました。

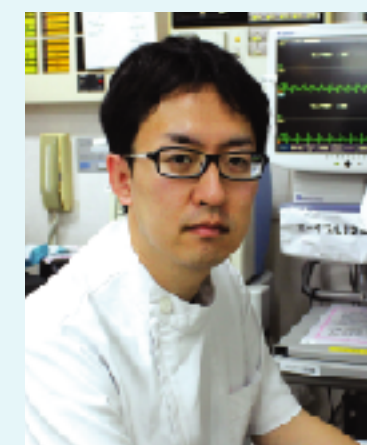
入職者自己紹介では、氏名、出身校と、「信頼される介護職員を目指します」等、一言抱負を述べていました。各施設の幹部職員の紹介と、一言ずつ激励の言葉があって、入職式は滞りなく終了しました。

<理事長挨拶>

入職おめでとうございます。今日から皆さんは社会人の一員です。配属になる“施設や病院の顔”として、入所者さまや利用者さまと接することになります。まずその自覚を持ってください。
介護や医療に携わる仕事に就かれる皆さんは、人のためになれる、生きがいのある仕事を選択されたわけです。一日も早く仕事に慣れて、利用者さまから信頼され、安心を与えられる人に成長されることを心から期待しています。

新任ドクター紹介

患者さんの気持ちに寄り添った治療を全く医療とは縁のない家で育ち、幼少期はケーキ屋さんやパン屋さんになりたいと言っていたようです。しかし、一足先に医師への道を志した姉から強い影響を受けて、少し遠回りはしましたが同じ職業に就くことができました。
「自分のできる範囲で人の助けになりたい」という当初の目標は何とか達成できているのか、自問自答しながら仕事をしています。多忙になるとつい疎かにしがちですが、理論や理屈だけで病気をとらえずに、患者さんの気持ちに寄り添った治療を行えるように心掛けていきたいと思います。気になることがあれば、遠慮なく何でも聞いてみてください。



TANAKA AKIHIRO

田中 晶大医師
プロフィール 2008年に金沢医科大学医学部を卒業後、2010年に関西医科大学内科へ入局。2011年に市立岸和田市民病院血液内科へ出向。2012年より関西医科大学附属枚方病院、2015年4月より鶴見緑地病院へ。専門はリウマチ・膠原病内科。33歳。趣味は楽器演奏、史跡巡り。

クローアップ close up!



★見学・体験をご希望の方は、
☎06-6957-8008までお問い合わせください。

さくら苑デイサービスセンター 「お楽しみメニュー週間」が大好評!!

「デイサービスセンター 旭さくら苑」では、どのように利用者さまに喜んでいただくか…。職員、そんな熱い思いが形になりました。ユニークなお楽しみメニュー週間がそれ。利用者さまと一緒に料理をしたり、職員がパフォーマンスをしたりと、一味違ったお食事タイムを楽しんでいます。お好み焼きや巻きずし作りに、わいわいがやがやとみんなで取り組み、出来たてほやほやをいただきます。何をやるかは、その日になってのお楽しみ。スタッフが知恵を絞ったメニューを提示します。考える事は大変ですが、皆さんが喜んでくれる顔を見ると、次は何を作ろうかと、意欲がわいてきます。生活相談員の東大輔さんは語っています。センターでは、他にも「変わり風呂週間」を設け、バラ風呂や季節感を生かしたゆず風呂など、少しでも利用者さまに楽しく、気持ちよく過ごしていただこうと意欲的に取り組んでいます。

鶴見緑地苑 認知症サポーター養成講座 安心して暮らせる町づくりを目指して

さる3月17日、認知症について学ぼうとのテーマのもと、鶴見緑地苑内で認知症サポーター養成講座が行われました。講師を、脳外科医の山内康雄氏、守口第6地域包括支援センターの職員が務め、1時間半にわたり、約40人の参加者が熱心に耳を傾けました。

2012年には462万人だった認知症高齢者が、2025年には700万人へと急増することが予想されています。こうした状況にどう対応していくのかは、「認知症になっても安心して暮らせる町づくり」を考えるうえで、欠かせない課題と言えます。

そこで求められるのが、認知症サポーターの養成であり、全国で展開されているのが「認知症サポーターキャラバン」です。本講座もその一環として行われました。

認知症に対する正しい理解、認知症の人への対応の心得——3つ「ない」驚かせない、急がせない、自尊心を傷つけないなど、大事なポイントがわかりやすく説明されていました。最後に、「サポーターって何をするのについて、何か特別なことをするのはなく、認知症について正しい理解をし、偏見を持たず、認知症の方や家族に対して温かく見守ることがスタートである」。

簡単に言うのと、応援者であることが訴えられ、充実の養成講座は終了しました。



気になる症状【Q&A相談コーナー】

Q 湿布剤の効果について教えてください。

A 世界的にみて日本人は薬と生命保険が大好きです。湿布剤も例外でなく全世界での消費量の4割は日本です。海外に目をむけると、フランスや東南アジアでは湿布剤というものが存在しません。つまり誰も使わない。米国では薬局でよく探せば見つけることができますが、主成分はメントールであり製剤剤というより単なる皮膚冷却剤です。一方日本ではいろいろな製薬会社からたくさんの湿布剤が発売されており、その一部は保険薬に認定されています。

では日本の湿布剤は医学的にどのようにして効くのでしょうか。——最新の湿布剤の主成分はロキソニンなどの非ステロイド系消炎鎮痛剤であり、これが皮膚から吸収されます。血中濃度の上昇はわずかで、錠剤を服用した時のような身体のいろいろな部位の疼痛には効果がありません。吸収された主成分が直接皮下を浸透し疼痛のある部位まで到達し効果が出ます。

ではどれぐらい深くまで到達するのでしょうか。——皮下脂肪層とその下の筋肉の表面までです。すなわち膝に貼っても関節内にはとどきません。腰に貼っても腰椎周囲の組織までとどきません。変形性関節症や椎間板ヘルニアで効果があるのは、本人が効いていると思込んでいるからです。打撲や筋肉痛には効果が期待できます。肥満体の人は皮下脂肪層が厚いため効果薄です。以上の事を理解し湿布剤を使用しましょう。



鶴見緑地病院
堀内 収 医師
HORIUCHI OSAMU



レシピ紹介コーナー 栄養課



recipe

【材料】(2~3人分)
スナップえんどう……………150g(約15~20本)
じゃがいも……………中1個
玉ねぎ……………1/4個
豆乳……………100cc
水……………300cc
オリーブオイル……………大さじ1/2杯
コンソメ……………3g
塩・こしょう……………少々(お好みで)

【作り方】
①スナップえんどうは筋をとって、さっと茹でておく。飾り用に2本~3本をとって置く。
②じゃがいもは、サイコロ状にカットし、玉ねぎは薄くスライスする。
③鍋にオリーブオイルを熱し、②を入れて、玉ねぎが透明になる程度まで炒めたら水とコンソメを加えて水分が半量程度になるまで煮る。
④ ①と③をミキサーにかけてから、鍋に戻して、豆乳を加えたら弱火にして煮立たせないようにして、最後に塩、こしょうで味を整える。飾り用のスナップえんどうを浮かせたら、出来上がり!!

管理栄養士 高田敬子
TAKATA KEIKO



スナップえんどうと新じゃがのスープ

今回は春野菜の栄養満点のスープをご紹介します。スナップえんどうは、4月から6月が旬の緑黄色野菜で、豆が熟してもさやが固くならず、さやごと食べられ食物繊維もしっかりとれます。じゃがいもは春と秋が旬で、一般的に春に収穫されたものを『新じゃが』と呼びます。どちらの野菜も、カリウム、ビタミンC、食物繊維などを多く含む栄養バランスの良い食材です。また、カリウムの多い果物や生野菜を十分に取ることで、ナトリウムの体外への排泄を促し、高血圧の予防に効果があります。